

# 報 告 書

開催日時	平成26年5月14日（水） 19時 ～20時30分	
開催場所	矢作多目的研修センター	
出席議員	挨拶 佐藤信一	
	司会進行	菅野広紀
	報告者	佐々木一義
	記録者	菅野 定、伊勢 純
	議員	伊藤明彦
参加人数	7名	事務局1名
主な要望 ・提言等	<p>○平成25年度の一般会計予算が1,019億1,100万円、本年度は1,293億6,000万円と震災前の10倍以上の規模となっているが全額消化されているのか。</p> <p>○林道整備の進行状況はどのようになっているのか。</p> <p>○昨年7月26日の大雨による小黒山沢の氾濫により、沢の法面が傷んだ被害と近くの山からの大木が建物に覆いかぶさっている現状の対応について、その対策はどのようになっているのか。</p> <p>○最近、県内外で山火事が多発していることから、馬越地区のいばらぐら沢に防火用水を設置して欲しい。なぜなら、その沢には大きな山火事が発生した場合の火災を鎮火させる水がないからだ。</p> <p>○馬越の舗装道路が雪沢・松の倉沢線の林道工事のため、大型の工事車両が頻繁に通るので大変傷んでいる。補修・改修工事の検討を願う。</p> <p>○陸前高田市のかさ上げ地の用地承諾の問題はどのように進んでいるのか。たとえば、昭和22年頃の農地改革にならい、特別立法にてスムーズにかさ上げができないものか。</p> <p>○住宅を建てる土地の価格は高騰していると聞くが、被災者が住宅を建設するのに支障はないのか。</p> <p>○国道343号線の笹の田トンネルの事業はどのように進んでいるのか。</p> <p>○地元矢作地区は限界集落であると思うので、消滅集落にならないよう対策を考えて欲しい。</p> <p>○今、旧矢作中学校校舎は気仙中として使用しているが、新しく気仙中が建設されたのちの旧矢作中の学校跡地利用をどのように考えるのか。まだ丈夫で対応年数が残っている校舎なので、地域住民のために、たとえば、介護施設などに再活用して欲しい。</p> <p>○JR大船渡線の鉄路での復旧はどのように進んでいるのか。矢作まででも早く復旧を望む。</p>	

所 感	<p>○伊勢 純</p> <p>今回の議会報告会は、地域課題を受けながらの懇談となり、地元地域の発展を願う立場からのご意見やご質問があがるのは当然であるが、大震災で被災した市内他地区の復興状況を問うご質問や被災者の住宅再建を願うご意見も多く出された。本市の被災や復興は、市内全地域、全市民で受け止め、取り組んでいることをあらためて感じた。</p> <p>地域課題では、林道の整備や防火体制、人口の減少などについて出され、産業と医療、介護の問題の大切さを痛感した。</p> <p>また、JR 大船渡線の鉄路再開についてのご意見は、本市のまちづくりのかなめともなるものであり、あらためて市民の願いの強さを感じた。</p> <p>○菅野 定</p> <p>矢作町民は笹の田トンネルの事業が早く実現し、さらにまた、旧矢作中学校の校舎の跡地が介護施設になることを期待している。真に自分たちの生活環境の中に人が集まることで、住民が元気になり、より良く変化することが地域全体にとって大切であることを理解し、それを望んでいる。</p> <p>矢作地区には海はないが、優れた山の幸、川の幸があり、そして、きれいな水がある。それは生活するものにとって自然の宝が豊富であり、とても自慢である。</p> <p>私は住民とともに市内外にその良さを発信しながら、人が集まる環境のまち矢作町に、そして陸前高田市にしていきたい。</p> <p>○菅野 広紀</p> <p>矢作二又地区の地域課題、津波被害が及ばなかった地域であるが、人口減・地域づくり等のまちづくりの必要性とそれをサポートする体制等の構築の必要性を感じた。</p> <p>○伊藤 明彦</p> <p>限界集落から消滅集落への不安、少子高齢化への対策をどう考えているのか。気仙中学校（旧矢作中学校校舎）の今後の利用方法はどうか。</p> <p>○佐々木 一義</p> <p>矢作地区への今年度予算は何か、林業道の進捗率はどのようになっているのか。鳥獣被害の対策の電気柵への補助等の質問や、国レベルの老健施設建設を望む声があり、また、被災された方の生活再建を一日でも早く望む声がありました。鳥獣被害の大きさを知り、さらなる対策の必要性を感じた。</p> <p>○佐藤 信一</p> <p>林道の整備、山火事等に対する防火水槽の設置、閉校となった学校施設の有効活用や、介護施設の誘致など、矢作地区ならではの提案もあり、活発な意見交換ができた。</p>
-----	---

平成26年6月6日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成26年度議会報告会産業建設班

班長 佐藤 信一 ⑩